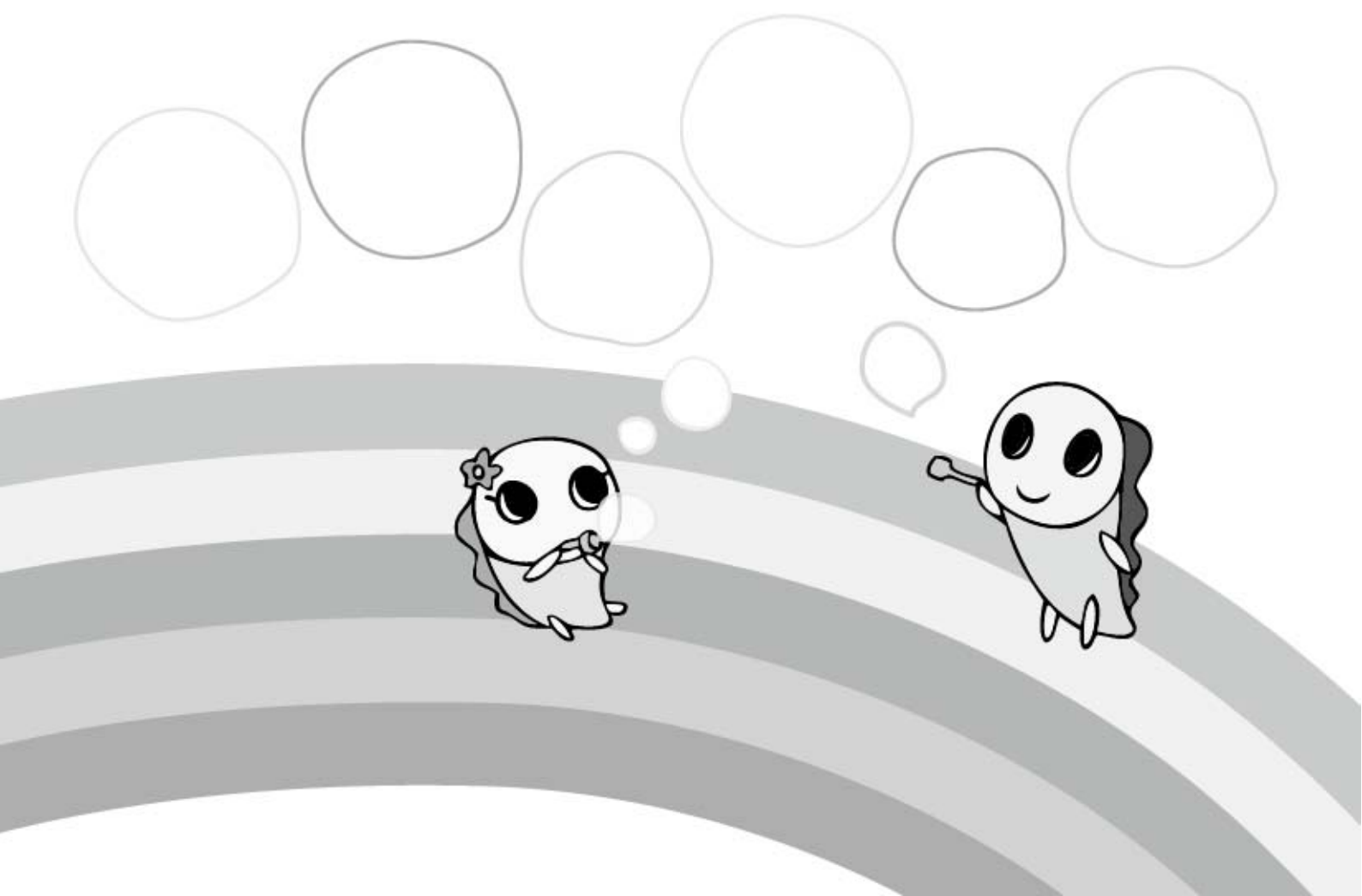


10年後の杉並、私の夢

～ 小学生の部 ～





区長賞

十年後の杉並区の夢

井荻小学校 六年 伊藤 亜海

私は、十年後の杉並区が今よりも自然でいっぱいな所になってほしいです。

私たちの学校には善福寺川が流れています。善福寺川は、昔は人が泳げるほどきれいな川だったのですが、今はコンクリートに囲まれていて生き物もほとんどくらしえないよくなきたない川になってしまいました。なので、私たちは、清掃活動をしています。

清掃活動は、週に一回行っています。週に一回という少ない回数でも善福寺川は少しずつきれいになっていきます。

しかし、善福寺川には大雨がふると下水が流れ出してしまうせつかく清掃活動しても、トイレトップパーなどが、川に生えているアシなどにこびりついてしまい、なかなか取れなくなってしまうので、これからは私た

ち子どもも清掃活動をがんばりますので大人たちにも協力

していただいて、杉並区に来てくれた人みんなが

「この川ってきれいだな。」

と言ってくれるような川にしたいです。

そして、この私の作文を読んでもくださった方々に私たちが井荻小の生徒からお願いがあります。それは、雨がふっても下水が流れこまないようにすることです。これは、少し大変なことですがお願いします。

私は、この善福寺川がきれいになるまでずっと清掃活動を続けていきたいです。



優秀賞

理想の杉並区

桃井第三小学校 五年 吉本 優子

「自然豊かな町」

私は、杉並が十年後、こうなっていればいいと思いました。



私が生まれた所は、和歌山県で、生まれてすぐ杉並区に
来ました。でも、お父さんの実家なので、和歌山には毎年
行っています。そこは、すごく自然豊かで、実家のすぐと
なりに山があるほどです。そんな和歌山に、今年の夏休み
行った時の一番の思い出は、「星空」です。夜、実家の庭
で花火をしていた時でした。星空を見た時は、だまって見
ることばかりに集中するくらい、言葉では表わせないほど
感動しました。それと同時に、
「東京も自然豊かになったら、気分が良くなるのにな。」
と強く思いました。

私は、その体験を通して、緑を増やす活動を少しでもし
ていきたいなと思います。一人一人がそうすれば、杉並区
は、今以上にきれいになるし、一人一人の心もきれいにな
ると思います。今の杉並も、他の所に比べて、自然が多い
方だと思います。でも、もっともっと、きれいにしていけ
ば、心も体も良くなります。なので、一人一人が、「ポイ
捨てしない。」「なるべくゴミをださない。」など、そんな
ことを少しでも頭に入れておいてほしいです。

私が和歌山で体験したことのような、体験をしたことが
ある人もない人も、「未来は今で決まる」ということなので、
今から活動し、十年後には、自然豊かになっていければいい

など思います。というより、なっています！と言えるくら
いの思いで生活していきます。



優秀賞

十年後の杉並区

荻窪小学校 五年 渡邊 真由

私は、父といっしょに善福寺川緑地公園まで散歩するこ
とがとても好きです。

小さいころは、毎週善福寺川緑地公園の中にある、杉並児
童交通公園で自転車の練習をして乗れるようになりました。
家から、住宅街や商店街を通って緑地公園に入ると、葉っ
ぱや生き物のおいがします。

私はそのおいをかぐと、落ち着きます。
子どもたちが野球やサッカーなどをしたり、おじいちゃ
んやおばあちゃんが体操をしたりしているのを見るのも楽
しいです。



しかし、時どき道路にたばこや飲みおわった空きカンやペットボトルが落ちていると、とても残念な気持ちになります。

また、善福寺川の源流はきれいなのに下流の方は、緑のもやごみでできない事もふしぎに思います。

十年後の杉並は、緑がたくさんあって、みんなですごす場所に、ごみあまり落ちていない町にしたいです。

また、善福寺川がきれいになって、小さな魚ややごがいっぱい育って、秋にはとんぼがたくさん飛んでいたらすてきだと思います。

そのために、私は道路などに落ちているごみをごみ箱に捨てようと思います。父や母に、そして学校の人にも声をかけたいです。杉並区に遊びに来た人にも勇気をもって、「いっしょにきれいにしてください。」と声をかけたいです。



優秀賞

私のぞむ町

新泉小学校 五年 藤木 まな

朝、外へでると、いそいそと駅へでかけるサラリーマン。

仲良く通学する小学生の行列。

町中が活気づいています。

私はとてもこの杉並区が好きです。

毎日、同じようであちがう風景が私を楽しませてくれます。

通学とちゆう、道ばたをそうじしているおばさんに、

「おはよう。いい日だね。学校がんばってね。」

と言われたり、知らない女の子が、

「おねえちゃん、おはよう。」

と言ってくれるとこの町は平和だなと感じる一方、元気がでたりうれしくなったりします。

緑のおじさんやおばさんが、

「おはよう、気をつけてね。」



と私の身をあんじてくれることにひそかながらうれしい気持ちを抱いています。

こんなに平和にみちている町は、世界中さがしてもあまりないかもしれません。

私がこの町にのぞむことは、このままできてくれることです。

この平和にみちたこの町を、多すぎずとも少なすぎないこの自然を変えずにとつておいてほしいのです。

私が大きくなっても、変わらず一步一步れきしをきざんでいてほしいのです。

大人になっても安心して、帰ってこられるこのままの町を残しておいてほしいです。

これが私がこの町にのぞむことです。



優秀賞

十年後の杉並

新泉小学校 六年 須藤 陸

十年後の杉並は、体の不自由な人や、年をとった人でも快適にくらせる、そんな町になっているはずですよ。

今の杉並では、たとえば、「弱視」という目の障がいを持っている人は、階段が、もようによっては斜面に見えてしまうことがあります。階段が斜面に見えたとふみはずしやすくなり、階段から落ちれば最悪の場合死んでしまうかもしれません。とても危険ですよ。

十年後の杉並では、階段のもようを変え、見やすくして、弱視の人にも使いやすい階段があちこちに設置されていると思います。他にも、全ての信号機を音がでるようにしたり、町の中の段差をなくしたり、地図などの文字を大きくすることで、障がいを持っていてる人や年をとった人にも住みやすく、快適な町になっていると思います。



しかし、町が変わるだけでは解決できない問題もあります。点字ブロックの上に自転車をおいたりすると、杉並は体の不自由な人にとって「住み良い町」ではなくなってしまう。町が変わっても、人が変わらなければ意味がないのです。

町が変わるのにはお金がかかります。しかし、人が変わるのにはお金はかかりません。町の中でこまっている人を見かけたら、見かけた人が助けてあげる。「だれかが助ける。」ではなく、「自分が助ける。」ということ、全ての人がかがけている。十年後、そんな町に杉並はなっていてほしいです。



優秀賞

十年後、杉並がこんな町になったらいいな

和泉小学校 五年 高木 杏

私は、十年後杉並がみんなが住みたくなるような町にし

たいです。そのためには、一人一人ががんばって、町を良くする事が大切な事だと思えます。それから、みんなが協力して町を良くするのも大切だと思えます。

町を良くする事の一つは思いやりのある行動をする事です。例えば、電車で席をゆずる事や、目の見えない人のお手伝いをしてあげる事などです。かんたんな良い事をするだけで、いろいろな人が喜ぶと、自分もうれしくなります。自分もうれしく、人もうれしいのが思いやりだと思えます。杉並のみんなが思いやりを持ってば、他の人も杉並に住みたい、と思うと思えました。

町を良くする事の二番目は、感謝の気持ちを持つ事です。何かしてもらったら、「ありがとう。」と言って、感謝の言葉を言ったら、相手もうれしいと思えます。この事を当たり前にして、いごこちの良い杉並区にしたいと思えました。町を良くする事の三番目は力を合わせる事です。一人一人の努力が何倍にもなったら、すごい事ができると思えます。仲間がいればいるほどにぎやかになって楽しくできると思うし、一人じゃできなかった事ができるようになったらうれしいです。一人一人の良い所が集まったら、他の区にできない事ができるかもしれないのががんばりたいです。

私は、この作文を書いて身の周りにできる事があつたら



積極的にやってみたいなあと思いました。なぜかという
と、私はこの作文を書く前はあまり杉並区の事を考えてい
なかつたけれど、実際作文を書いてみるとまだまだできる
事があると分かったからです。

私は、杉並区を世界一良い区にしたいです。十年後はま
だまだ先だけれど、二〇二二年の杉並区は思いやりで
いっぱいの方にしたいです。私に分かった事は、杉並区を
変えるのは一人一人の努力が必要な事です。良い杉並区に
するためがんばります。



佳作

人と自然にやさしくくらし

杉並第七小学校 五年 青木 泰樹

ぼくは、十年後、杉並区がこんな町になったらいいな
と思うところは三つあります。

一番目は、善福寺川をきれいにして、ホタルがやってく

るような川にすることです。ぼくは、二才の時、初めてホ
タルを見て、とてもきれいで感動しました。だから、近く
にホタルが見える場所があればいいな、と思ったからです。
ぼくには、二才の妹がいます。だから、妹にも、ほかの小
さい子にも同じ経験をさせてあげたいです。

二番目は、杉並区にあるすべての道路にサイクリング
ロードをつくることです。理由は歩道を自転車で走ると、
歩いている人にぶつかったり、お店にぶつかったり、非常
に危険だから、歩道には、自転車は通ってはいけないと思
いました。ぼくも、歩道で自転車に乗っていて、人にぶつ
かってしまったことがあります。その時、本当に自転車が
歩道を通っていいのかなと思いました。

三番目は、ゴミやタバコのポイ捨てをしない町にするこ
とです。ぼくは、ぜんそくを持っています。だから、タバ
コをすうのをやめてほしいと思っています。だけど、それ
以上にポイ捨てはもっとやめてほしいと思っています。理
由は、たとえばふみつぶしたとしても火がつきっぱなしで、
火事になってしまうかもしれないから、絶対にやめてほし
いと思います。また、ゴミもポイ捨てはいけないと思いま
す。道がよごれるし、ほかの人が見るといやに思えます。
だから、ゴミのポイ捨てをやめてほしいです。もし、ポイ



捨てを見つけたら、見つけた人がゴミ箱へ捨ててほしいと思います。

ぼくは、事故や道がよごれるのはきらいです。逆に自然と触れ合うのは大好きです。だから、ぼくは、十年後の杉並区は、事故を減らし、道や川をきれいにし、自然と触れ合える区になればいいなと思います。



佳作

未来の想像 杉並の町

東田小学校 五年 寺林 佑馬

ぼくは、十年後の杉並区が、こんなふうになったらいいと考えました。

まず一番目は、歩道がきれいということ。なぜ、そう思ったかは、あきかななどのゴミがちらばっていたらきたなくて、その道にだれも通らなくなってしまうし、きれいだと思っても少し気持ちが悪くなるから歩道がきれいに

なつてほしいと思いました。

二番目は、自然がいっぱいということ。なぜかは、都会の中でも、杉並区だけはちがうぞ、自然は杉並区にいっぱいあるぞと、じまんでできる区になつてほしいのと、自然がいっぱいあるといういろいろな動物がきてくれるので、子どもがいっぱい動物を見たりして、その動物をずかんで調べたり、名前を覚えるので、しげんに勉強することになるから。それにぼくは、動物が好きなので、ぼくもきた動物と遊びたいのもあるからです。なので、自然がいっぱいあつたほうがいいと思つたからです。

三番目は、みんなが協力してくらせる町になつてほしいということ。ぼくは、子どもとお年寄りが気がるに話せると、いいと思いました。なぜそう思つたかは、関係が強く深くなるほど、おたがいをしんぱいする気持ちが生まれ、何かあつた時に、協力しあえるからです。ぼくは、こんな町にするために、まずきんじよの人から、会つたらあいさつすることを心がけたいです。今、ぼくの想像した、三つのことを実現するために、ゴミ拾い、草木の水やり、ちいきの行事を積極的にやつたり、参加したいです。





佳作

「みんなが住みやすい町・杉並」

桃井第三小学校 六年 小田 薫

私が住みたいと思う町は、暮らしやすく、そして楽しい町です。

まず、単に「暮らしやすい」と言いましたが、私の中でこの「暮らしやすい」とは主に二つの意味を持っています。

一番目は、五つの目標にもある、「安全」についてです。去年あった「東日本大震災」で私は家で何度も津波の被害にあった被災地を見ました。

たおれ、流される家、そして中には人の姿もありました。あの映像を見て、自分の中で想像もしていなかった何かが、いきなり現実になりました。そして思ったのが、もし杉並がああ状態になったら、ということ。私は杉並を、そして家をあのようにならないように、しっかりと防災意識を高め、行動したいと改めて思いました。

二番目は、「支えあい」です。私はよく近所の人と「挨拶」をします。毎日しているからこそ思うのが「挨拶の大切さ」です。やはり挨拶をしていると、顔を覚えるので、災害の時に助けてもらえますし、ふだん大変そうな時に助ける事ができます。私はだからこそ、支え合いは大切だと思いました。

次に、「楽しい町」とは何かです。私の思う楽しい町とは、単にイベントというわけではなく、常日頃、活気があがる町ということです。私が住んでいる西荻でも思うのですが、商店街などに行っても、あまりいせいのいい声などが聞こえません。そこで思うのが、もう少し元気な感じでもいいんじゃないか、ということです。

今回の作文のテーマである「十年後の杉並」。私が希望する杉並とは、活気があり、支え合いを大切に、安心感のある町です。

いつか私が大人になったら、この希望する町に少しでも近づけるような活動を考え、進んで行いたいと思っています。





佳作

十年後の杉並の理想

桃井第三小学校 六年 嶋田 夏美

私は十年後の杉並区がこうであってほしいなと思うことが二つあります。

一番目は、自然がたくさんある町になってほしいということです。今の杉並区には、緑が少なく、まどから見ても家しか見えません。人間が快適に過ごせる町づくりも大切ですが、人間だけでなく、地球にも優しい町づくりを優先した方がいいんじゃないかと私は思います。例えば、道路に花だんを置いてみたり、公園を少し増やしてみたり。少しの工夫で、杉並はもっと緑があふれる町になるんじゃないかと思います。緑が増えるということは、空気もきれいになり、杉並がもっと過ごしやすい環境になります。そうになると、「杉並はいいところだな。」「杉並に住んでいてよかった。」と思ってくれる人がいるはずです。だから私は、

杉並が自然のたくさんある町になってほしいと思いました。

二番目は、みんなが助け合う心を持っている町になってほしいということです。駅で重そうな荷物をたくさん持っている人。目が不自由で、方向が分からなくて困っている人。そういった人たちに「手伝いましょうか。」と一言声をかけられる、そんな優しい心の持ち主が杉並に増えてほしいと思います。そのためには、ボランティア活動を増やしたり、地域の方との触れ合いなどに参加したり。そんな呼びかけが必要です。

この作文を書いて、私の理想の杉並にするには、ただ「こうなったらいいな。」と思うだけでなく、それを実現するまでにたくさんの方が努力が必要だということが分かりました。だから私は理想の杉並をつくるために、今からちきりの集まりに参加したり、困っている人に声をかけたりして、少しでも自然と優しさがあふれる杉並にしたいと思います。





佳作

下水道を止めて!!

井荻小学校 六年 平林 勇斗

ぼくは、十年後、杉並区がこんな町になったらいいと思います。

ぼくの学校、井荻小学校の中には、善福寺川が流れています。ぼくたちの学校では、善福寺川がきれいになってほしいという願いをこめて週一回自主的に清掃活動をしています。しかし、きれいになりません。その理由は、

- 一、ゴミを捨てる大人がいるから。
- 二、下水が流れているから。

そこで、未来の十年後を書きます。ぼくの願っている十年後は、さくが外され、自由に、許可なく川の中に入れて、川の中や周辺にもゴミがない川です。そして、子どもが楽しく遊べる川になってほしいです。そうするためには、大人の協力が必要です。大人のみなさんに協力してほしいこ

とは、下水道を止めることです。川がよごれている一番の原因は、大雨の次の日に流れてしまう下水です。わき水は、きれいですが、下水が流れているせいで、わき水が流れて三十センチものところで、下水とまじってきたなくなってしまう。なので、下水を止めてください。十年後には、下水道が止まって、川全体がわき水のように、自然のまま、魚がいっぱいいて、楽しく遊べる川になり、未来の子どもが、「オイ、今日善福寺川で遊ぼうぜ!!」と言っている姿を見たいです。ぼくたちは、すすんで放課後に清掃活動をするので、大人の人も、できることをしてください。未来は、大人と子どもで協力してきれいな川をたもつていく姿にしたいです。





佳作

未来の杉並区

堀之内小学校 六年 鶴見 冴耶

私は、十年後の杉並区はみんなが仲良くできて助け合える町がいいと思います。

私の家の近所の人たちはみんな仲が良い人たちばかりです。夏には一緒に花火をしたりデイズニールランドに行ったりします。私にとって、近所の人と仲良くするのは、当たり前のことだと思っていました。でも、友達は今よりも仲があまり良くないと言っていました。友達が家に来たときに私が通りがかった近所の人に話しかけると、よく友達が「近所の人と仲が良いね。」と言います。私にとっては、近所の人と仲良くするのは普通のことだけれども、近所の人と仲良くしている人は少ないのかなと思います。

ある日、近所の犬のエアースが他の犬にかまれてしまいま

した。その時に、私のお母さんが薬を貸してあげました。その後エアースは、傷がなくなっていました。私は、このように人と人が、助けたり助けられたりするという関係がとても好きです。

最近、私の家の近所に新しい人が引っ越してきました。でも、その人とはあまり会わないので話したことは少ししかありません。きっとその人は、前に住んでいた場所でも近所の人と仲良くなかったのかなと思います。私は、その人に自分から話しかけて、仲良くなりたくいです。そして、私と近所の人との関係のようにその人とも助け合えるようにしたいです。

十年後の杉並区も、私と近所の人たちのように、仲良く助け合っていけば、すてきな町になると思います。





佳作

十年後の自分

和田小学校 六年 中島 聖斗

ぼくは、今野球を習っています。ぼくの夢はプロ野球選手です。なので、そのためにできるだけ練習をたくさんしています。でも、まだチームはできたばかりでまだ一勝もできていません。けれどもしっかりと練習していれば勝てると思っています。そして、もし、ぼくの夢のプロ野球選手がかなったら、杉並に一回は絶対もどってきて、杉並区の子どもに野球を教えてあげたりして、野球を広めたり、野球道具などをプレゼントしたいです。さらに、元阪神タイガースの赤星選手みたいに、一つ盗塁を決めることに車いす一つを寄付するなどのことをやりたいと思います。ぼくはヒットを一本打つと車いす一台を寄付したいです。それで二千本安打を記録して二千台車いすを寄付したいです。最後に、ぼくは、児童養護施設に住んでいる関係で杉並区



佳作

笑顔あふれる杉並のまち

済美小学校 六年 伊東 小町

私が望む十年後の杉並区は、緑がたくさんあって人々のあいさつがとびかうまちになって欲しいと思います。そんなまちになるために、私は今、登校時、下校時に会った近所の人たちに自分からあいさつをすることを心がけたり、地域みなさんが通りそうな場所に花を植えたりして努力をしています。十年後に杉並のまちが元気で明るい、人気のあるまちになっていて欲しいのでこれからもこの努力を



続けていこうと思っています。十年後、杉並区で生まれ育った人たちが「杉並区で育って良かったな。」と思えるようなまちづくりをして、たくさんの人が自分の子どもの頃をふり返った時、笑顔になれる杉並区をつくっていききたいです。

それから、去年の3月11日に東日本大震災が起きてしまい、これから先も、大きな地震があると言われていきます。なので、大きな災害にもたえることのできる、安心で安全な住宅がたくさん杉並区に建っていて欲しいです。

また、大人になった時に、「杉並区で働きたい、活動をしたい。」と思う人が、今よりもっと増えていて、「住みたい。」と思う人がたくさんいればいいと思います。

このような杉並区になるためには、区民一人一人が自分のできることを考えて活動することが大切だと思います。緑がたくさんあって心が落ちつく場所になっていて欲しいです。



佳作

十年後の未来

和泉小学校 六年 伊藤 大器

最近、道路にポイ捨てされたゴミが気になります。一度気になりだすと、結構たくさんゴミがあるのだと、ますます目につくようになりました。

そこで十年後の杉並には、今よりもずっときれいな街になってほしいと思いました。そのために今すぐ実行できることは、道路や公園に落ちているゴミを拾う活動です。昨年、ぼくの通う和泉小の六年生が、学校周辺のクリーン作戦を行ったという話を聞き、これなら自分にもできるのではないかと考えました。

次に、区内に緑を増やし、緑豊かな十年後の杉並の街を想像してみました。都会の杉並でも、今年の七月に移動教室で訪れた下田や弓ヶ浜のような新鮮な空気が吸えたら、すばらしいのではないのでしょうか。



今は、燃費のいい車も多く、二酸化炭素をあまり出さない車も増えているけれど、完全に空気を汚さないわけではありません。考えてみれば、自分も、生活するうえで必ず電気を使うので、環境に影響を与えています。だからこそ、自分の手で緑を増やし、自然が身近にあるきれいな街にしたいという考えに至りました。

つきつめて考えると、ぼくは、自然と生活の快適さや便利さは両立できないと思います。でも、たとえ自分たちの生活が多少不便になっても、自然を優先するべきではないかと感じます。なぜなら、何もないところから森をつくるのは、一朝一夕にできることではないのに、自然や森を壊すのは、自分たちが意識しなければ、簡単にできてしまうからです。

自分が十年後に「森をつくる」という大きな活動に参加できるか分からないけれど、今日からできるゴミ拾いという活動は、確実に未来のきれいな杉並の街へ続いていると信じています。



佳作

人にやさしい杉並のまち

天沼小学校 六年 飯田 未夢

十年後の杉並が安心感にあふれ、みどり豊かな人にやさしい町になったらいいなと思います。町全体の美しさだけでなく、心の美しい人が増えているといいなと思います。

今の杉並区でも、道路に捨てられたゴミをいつもおそうじしてくれている人がいたり、花や緑を植えてくれている人がいたり、小学校に通っている子どもたちを車や自転車の交通事故から守ってくれているシルバーさんたちもたくさんいます。

でもそれとは反対に、ゴミのポイ捨てをしている人や、たばこを吸いながら歩いている人や、変な所に自転車を止めている人もたくさん見かけます。とても悲しいです。

杉並を、安全に暮らせる町で人にやさしい町にするためには、それを注意できる人や、協力してくれる人がたくさん



ん必要です。

一人一人が杉並に対する思いを強くすれば、どんどんいい町にしていけるのも、不可能ではないと思います。

私も十年後には、大人の仲間入りをしています。この杉並の町で、人の役に立ち、人を支え、助けられる心のやさしい人になってみたいです。私もボランティアで、花や木を植えてみたいです。

子どもも大人も、皆で協力しあって十年後、「杉並ってこんなにすてきな町なんだよ!!」って胸をはって言える町になったらいいなと思います。

